

業種別業界景気動向調査結果

令和5年度 第4四半期(令和6年1月～3月期)調査

概要

1. 調査の目的 四半期ごとに調査を行い、短期的な景気動向を把握する。
2. 調査基準日 令和6年3月1日
3. 調査対象 当所管内の中小企業等より138社を抽出。
4. 回答企業数 99社(回答率72%)

業種別内訳	製造業	18社	建設業	14社
	卸売業	9社	小売業	25社
	サービス業	28社	その他	5社
規模別内訳	大企業	1社	中小企業	92社
	業界団体	6団体		

* 期間表記について

「今 期」:令和6年1月～3月

「前年同期」:令和5年1月～3月

「前 期」:令和5年10月～12月

「来 期」:令和6年4月～6月

* DI値(景気動向指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの各項目についての判断の状況を表す指数である。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

I. 概況（全業種）〈今期（令和6年1月～3月）の概要〉

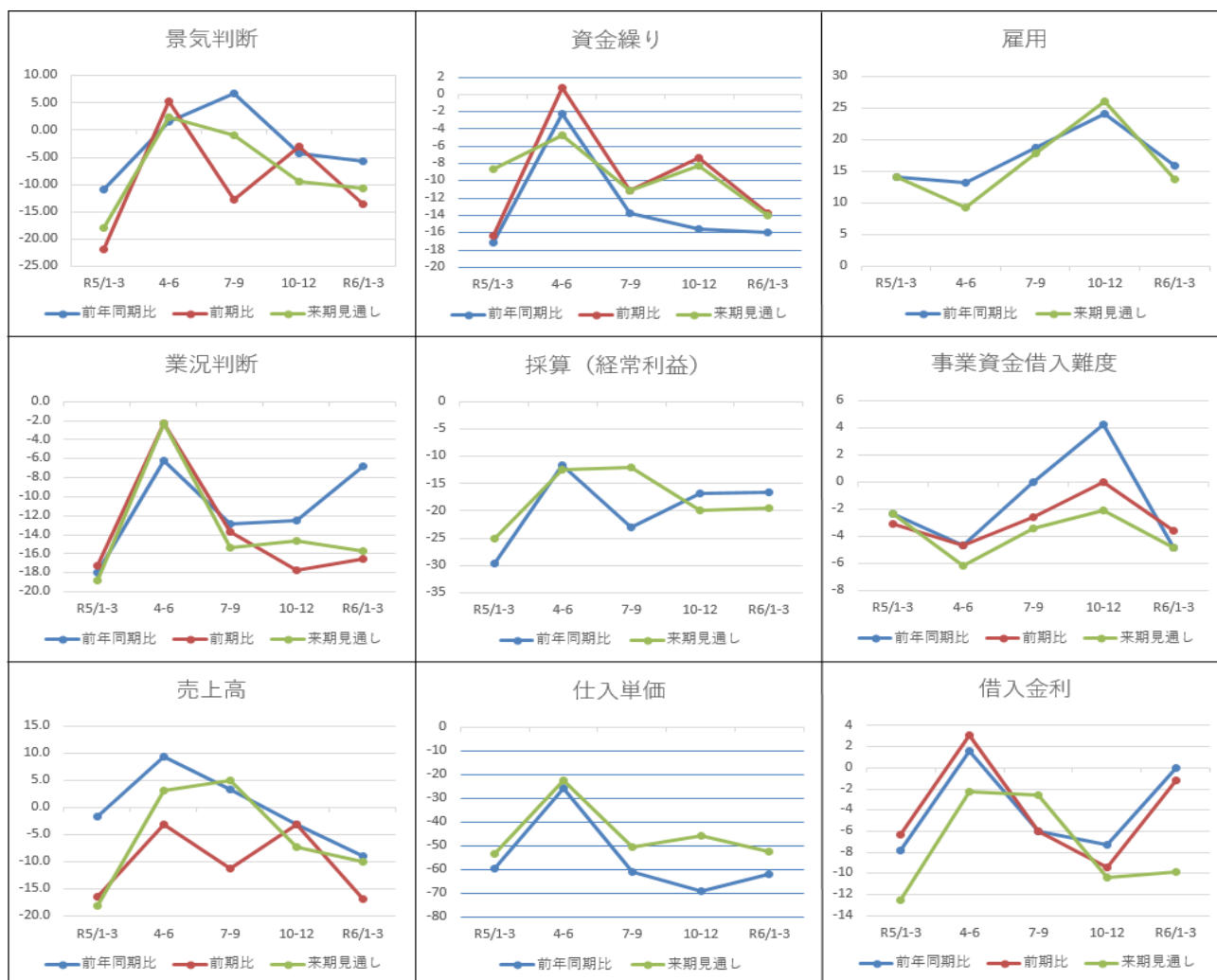
景気判断DIは、前年同期比、前期比、来期見通しともマイナス幅が拡大。

景気判断DIは、前年同期比、前期比、来期見通し、全てにおいてマイナス幅が拡大した。前年同期比では、「製造業」、「卸売業」、「小売業」でマイナス幅が縮小したものの、「建設業」と「サービス業」のマイナス拡大幅が大きく、全体として、小幅ながらマイナス幅が拡大した。

前期比では、「卸売業」のみマイナス幅が大きく縮小したものの、「製造業」「建設業」「サービス業」が大幅にマイナスに転じたことで全体としてもマイナス幅が大きく拡大した。

来期見通しでは、「卸売業」が大幅にプラスに転じたものの、「小売業」と「その他の業」のマイナス幅は拡大したことで全体としても小幅ながらマイナス幅が拡大した。

項目	前年同期比DI			前期比DI			来期(先行)見通しDI		
	比較	DI	判断	比較	DI	判断	比較	DI	判断
景気判断	↓	▲ 5.8	マイナス幅拡大	↓	▲ 13.6	マイナス幅拡大	↓	▲ 10.8	マイナス幅拡大
業況判断	↑	▲ 6.8	マイナス幅縮小	↑	▲ 16.5	マイナス幅縮小	↓	▲ 15.7	マイナス幅拡大
売上高	↓	▲ 8.8	マイナス幅拡大	↓	▲ 16.7	マイナス幅拡大	↓	▲ 10.0	マイナス幅拡大
資金繰り	↓	▲ 16.0	マイナス幅拡大	↓	▲ 13.8	マイナス幅拡大	↓	▲ 14.0	マイナス幅拡大
採算(経常利益)	↑	▲ 16.5	マイナス幅縮小	-	-	-	↑	▲ 19.4	マイナス幅縮小
仕入単価	↑	▲ 61.9	マイナス幅縮小	-	-	-	↓	▲ 52.1	マイナス幅拡大
雇用	↓	15.8	プラス幅縮小	-	-	-	↓	13.7	プラス幅縮小
事業資金借入難度	↓	▲ 4.8	マイナス値に転じる	↓	▲ 3.6	マイナス値に転じる	↓	▲ 4.8	マイナス幅拡大
借入金利	↑	0.0	プラス値に転じる	↑	▲ 1.2	マイナス幅縮小	↑	▲ 9.9	マイナス幅縮小



＜産業別の主な動き＞

産業別に見ると、今期の景気判断D Iは、卸売業でプラス値に転じ、また製造業と小売業でもマイナス幅が縮小しプラス値に転じたが、サービス業、建築業においてはマイナス幅が拡大し、景気判断DIは悪化する結果となった。

産業別のコメントは以下の通り。

判定	↑	↗	→	↘	↓
前期との差	10.0以上	9.9～1.1	1.0～-1.0	-1.1～-9.9	-10.0以上
	改善 ←			→ 悪化	

【製造業】

景気判断	業況判断	売上高	資金繰り	採算	仕入単価	雇用	借入難度	借入金利
↑	↑	↑	↗	↑	↘	↑	↘	↑

- ・人員確保難が課題。（うどん製造販売）
- ・物価高における買い控えにより売上減少、賃上げによる業績への影響を省人化や省エネ化、生産効率向上により如何にカバーするかが課題。（食料品製造業）
- ・新卒採用以外での中途採用や派遣社員募集を行っているが、希望する人数の確保には至っていない状況が続いている。（機械器具部品製造）

【建設業】

景気判断	業況判断	売上高	資金繰り	採算	仕入単価	雇用	借入難度	借入金利
↓	↗	↓	↘	↓	↗	↘	↘	↑

- ・現場監督を新卒、中途とも募集しているが応募が無い状況。新卒入社2年目の社員2名を育成中。2024年問題については対応進行中。（総合工事業）
- ・仕入価格は増大しているが全て価格転嫁できている（設備工事業）

【卸売業】

景気判断	業況判断	売上高	資金繰り	採算	仕入単価	雇用	借入難度	借入金利
↑	↗	→	↓	↗	↓	→	↓	↗

- ・ハローワークにて従業員を募集しているが応募がなく、欠員が埋められない状況。（家生活雑貨、インテリア雑貨（卸））
- ・リベンジ消費の反動からか小売店での消費が伸びておらず、卸売業も売上高減少。（家具・建具・じゅう器等卸売業）

【小売業】

景気判断	業況判断	売上高	資金繰り	採算	仕入単価	雇用	借入難度	借入金利
↑	↗	↑	↑	↗	↑	↗	↘	↗

- ・根本的に人手不足の折、インボイス対応などが本業を圧迫。在宅勤務やオンライン会議が増加している影響からか、PC 及び PC 関連商品売れ行き好調。（家電製品販売）
- ・採用難が続いている。業界に人材が流れてこない。（衣料品販売）
- ・大型量販店の過度とも思われるサービスには小規模専門店では太刀打ちできない。（自転車、バイク販売）
- ・インボイス制度が実施され、事務負担増大。
インバウンド客（主に韓国人）が増加傾向。韓国人の間で SNS により情報が共有され、宣伝効果を生んでくれている模様。（酒類販売）

【サービス業】

景気判断	業況判断	売上高	資金繰り	採算	仕入単価	雇用	借入難度	借入金利
↓	↘	↓	↓	↘	↑	↗	↓	→

- ・インボイス制度により消費税負担増加。（貨物運送取扱業）
- ・「物流の 2024 年問題」に対し、大手は既に対応済みであるが中小運送業者については不透明。元々業況が厳しい事業所については廃業も視野。（自動車板金）
- ・大手企業中心に世間は賃上げムードがあるが中小・零細には無関係であり格差を感じる。（エステティック業）
- ・初任給引上げの効果か、次年度の採用計画は達成できた。（旅館・ホテル）
- ・人口、特に子供の減少が厳しい。（理容業）
- ・新卒採用者は権利意識だけが高く、自分の意見が通らないとき会社がブラックであると断ってしまう傾向にあり、早期離職者に悩まされている。（テレビ番組制作業）
- ・新たに競合他社が開業予定であり、先行きに不安を感じている。（旅館・ホテル）

【その他の業】

景気判断	業況判断	売上高	資金繰り	採算	仕入単価	雇用	借入難度	借入金利
↘	↘	↓	↑	↗	↑	↑	→	↑

- ・個人消費の回復が遅く、荷動きが少ない状況が続いている。（倉庫業）

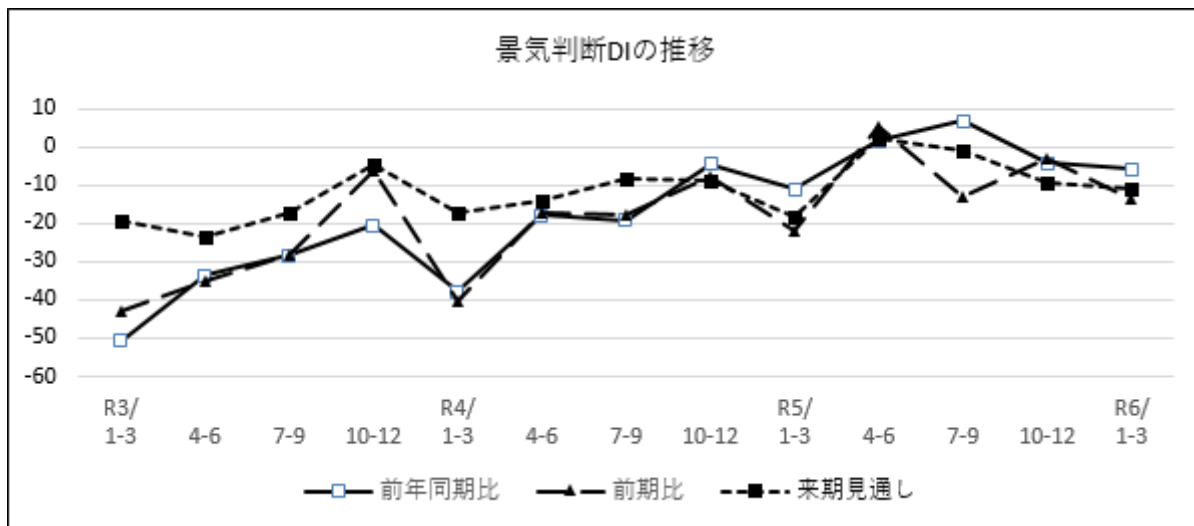
1. 〈管内景気動向〉

景気判断 景気判断DI（「上昇した企業割合」－「下降した企業割合」の指数）

前年同期比：DIは▲5.8ポイント。前回調査（▲4.2）から1.6ポイントマイナス幅が拡大した。

前期比：DIは▲13.6ポイント。前回調査（▲3.1）から10.5ポイントマイナス幅が拡大した。

来期（先行き）見通し：DIは▲10.8ポイント。前回調査（▲9.4）から1.4ポイントマイナス幅が拡大した。



		R3/1-3	4-6	7-9	10-12	R4/1-3	4-6	7-9	10-12	R5/1-3	4-6	7-9	10-12	R6/1-3
全業種	前年同期比	▲50.4	▲33.6	▲28.3	▲20.3	▲37.7	▲17.9	▲19.1	▲4.5	▲10.9	1.6	6.8	▲4.2	▲5.8
	前期比	▲42.7	▲35.0	▲28.3	▲6.0	▲40.0	▲17.2	▲17.6	▲7.5	▲21.9	5.4	▲12.8	▲3.1	▲13.6
	来期見通し	▲19.1	▲23.4	▲17.4	▲4.5	▲16.9	▲14.2	▲8.4	▲9.0	▲18.0	2.3	▲0.9	▲9.4	▲10.8
製造業	前年同期比	▲66.7	▲33.3	▲11.1	▲15.4	▲20.0	▲15.4	▲28.0	▲3.8	▲16.7	11.5	0.0	▲16.7	▲5.9
	前期比	▲59.3	▲25.9	▲11.1	11.5	▲32.0	▲26.9	▲20.0	▲7.7	▲29.2	▲7.7	▲12.0	5.6	▲17.6
	来期見通し	▲29.6	▲14.8	18.5	▲7.7	▲4.0	▲15.4	▲16.0	▲19.2	▲20.8	0.0	▲12.0	0.0	0.0
建設業	前年同期比	▲47.4	▲57.1	▲38.1	▲28.6	▲45.0	▲42.9	▲50.0	▲20.0	▲23.8	▲20.0	▲15.4	▲11.8	▲28.6
	前期比	▲42.1	▲52.4	▲42.9	▲23.8	▲35.0	▲28.6	▲35.0	▲23.8	▲15.0	▲23.8	▲5.0	▲46.2	▲21.4
	来期見通し	▲31.6	▲57.1	▲33.3	▲28.6	▲35.0	▲42.9	▲15.0	▲30.0	▲33.3	▲15.0	▲7.7	▲17.6	▲21.4
卸売業	前年同期比	▲71.4	▲21.4	▲35.7	▲15.4	▲28.6	0.0	▲23.1	0.0	▲16.7	▲27.3	▲18.2	▲12.5	0.0
	前期比	▲35.7	▲14.3	▲28.6	0.0	▲21.4	▲7.1	▲15.4	▲23.1	▲25.0	36.4	▲9.1	▲25.0	▲10.0
	来期見通し	▲21.4	▲21.4	▲35.7	15.4	▲14.3	▲7.1	▲23.1	7.7	▲16.7	9.1	▲9.1	▲25.0	10.0
小売業	前年同期比	▲42.9	▲26.3	▲39.5	▲32.4	▲48.6	▲22.2	▲5.4	2.7	0.0	0.0	12.9	▲21.7	▲4.0
	前期比	▲37.1	▲39.5	▲39.5	▲21.6	▲57.1	▲22.2	▲8.1	▲8.1	▲2.8	▲8.8	▲12.9	▲13.0	▲12.0
	来期見通し	▲17.1	▲10.5	▲31.6	▲2.7	▲22.9	▲13.9	▲5.4	▲8.1	▲16.7	▲5.9	3.2	▲4.3	▲12.0
サービス業	前年同期比	▲36.0	▲29.6	▲22.2	▲7.7	▲32.0	▲14.8	0.0	▲7.7	▲7.7	25.9	21.4	23.8	▲3.6
	前期比	▲48.0	▲33.3	▲22.2	7.7	▲36.0	▲7.4	▲19.2	7.7	▲38.5	37.0	3.6	0.0	▲14.3
	来期見通し	▲16.0	▲33.3	▲14.8	7.7	0.0	0.0	3.8	7.7	0.0	22.2	14.3	▲14.3	▲14.3
その他の業	前年同期比	▲45.5	▲40.0	▲18.2	▲10.0	▲54.5	10.0	▲30.0	0.0	▲11.1	▲9.1	22.2	22.2	20.0
	前期比	▲18.2	▲40.0	▲18.2	0.0	▲45.5	10.0	▲10.0	▲9.1	▲22.2	▲9.1	▲22.2	0.0	0.0
	来期見通し	18.2	0.0	▲9.1	▲10.0	▲36.4	0.0	0.0	▲9.1	▲33.3	9.1	▲11.1	0.0	▲4.0

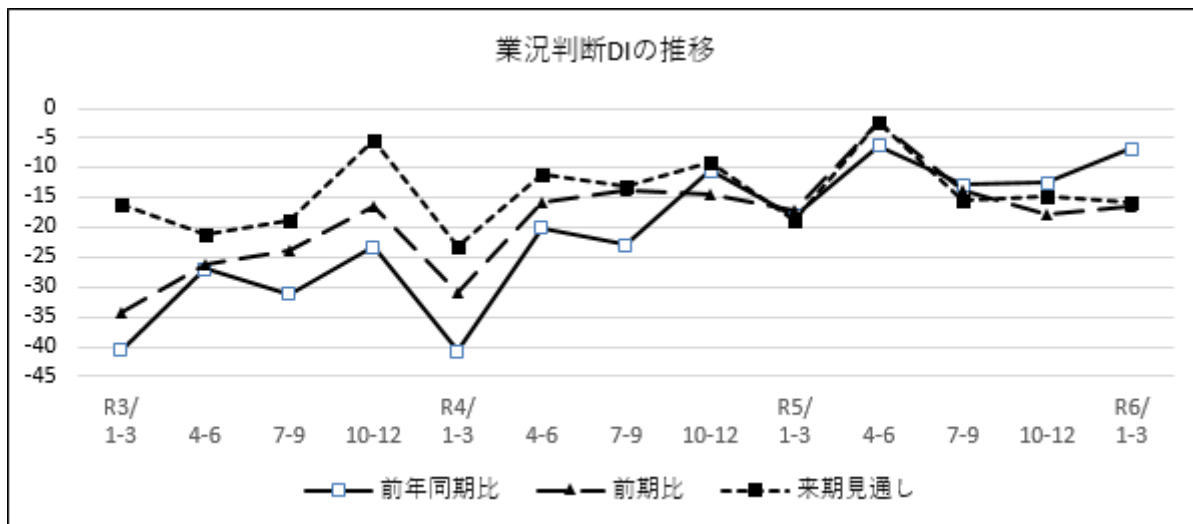
2. 〈企業経営動向〉

(1) 業況判断 業況判断DI（「好転した企業割合」－「悪化した企業割合」の指数）

前年同期比：DIは▲6.8ポイント。前回調査（▲12.5）から5.7ポイントマイナス幅が縮小した。

前期比：DIは▲16.5ポイント。前回調査（▲17.7）から1.2ポイントマイナス幅が縮小した。

来期（先行き）見通し：DIは▲15.7ポイント。前回調査（▲14.6）から1.1ポイントマイナス幅が拡大した。

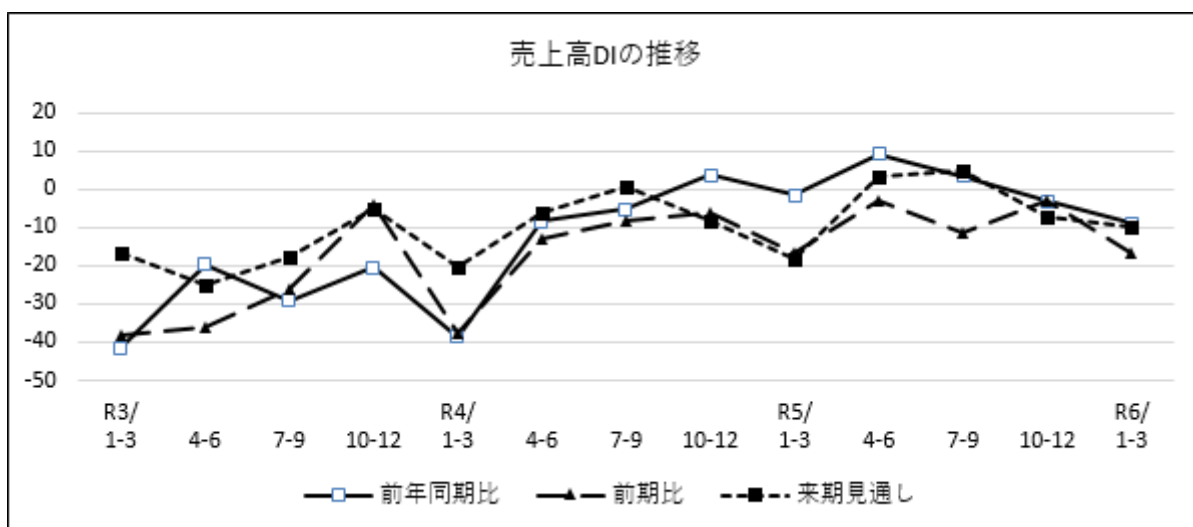


(2) 売上高〔受注額〕 売上高DI（「増加した企業割合」－「減少した企業割合」の指数）

前年同期比：DIは▲8.8ポイント。前回調査（▲3.1）から5.7ポイントマイナス幅が拡大した。

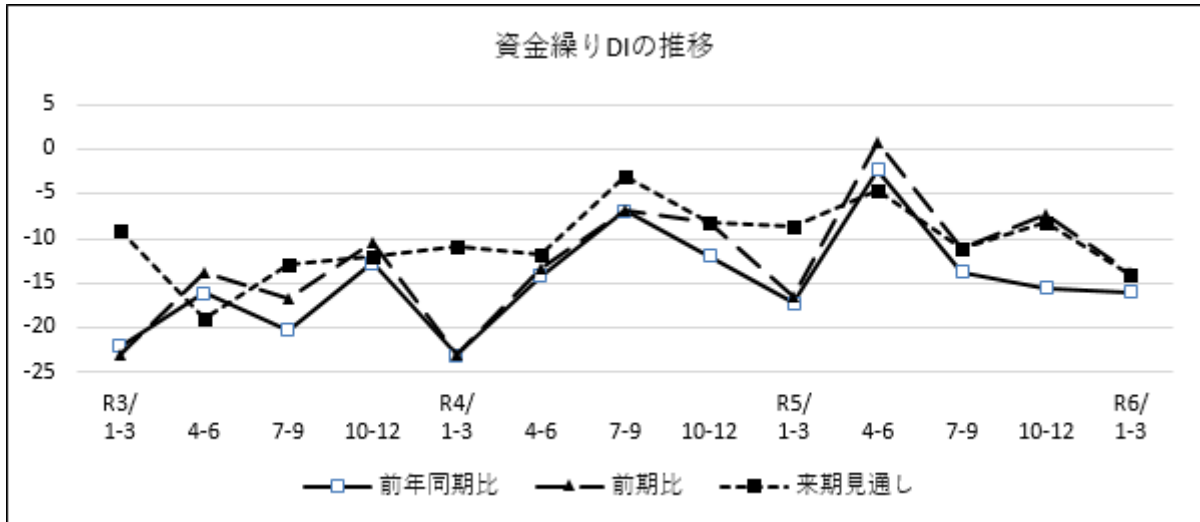
前期比：DIは▲16.7ポイント。前回調査（▲3.1）から13.6ポイントマイナス幅が拡大した。

来期（先行き）見通し：DIは▲10.0ポイント。前回調査（▲7.3）から2.7ポイントマイナス幅が拡大した。



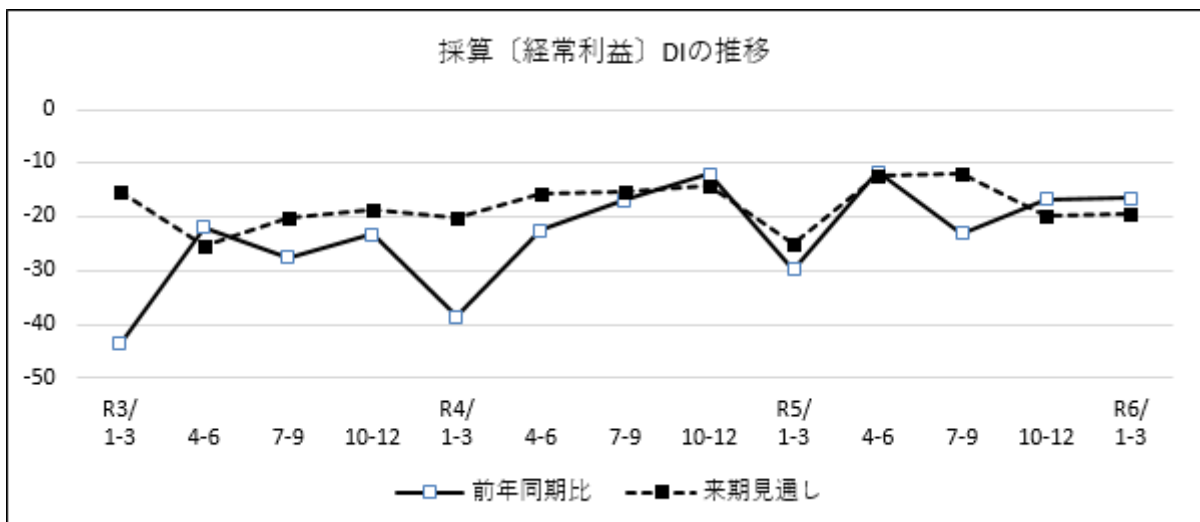
(3) 資金繰り 資金繰りDI（「好転した企業割合」－「悪化した企業割合」の指数）

前年同期比：DIは▲16.0ポイント。前回調査（▲15.6）から0.4ポイントマイナス幅が拡大した。
 前期比：DIは▲13.8ポイント。前回調査（▲7.3）から6.5ポイントマイナス幅が拡大した。
 来期（先行き）見通し：DIは▲14.0ポイント。前回調査（▲8.3）から5.7ポイントマイナス幅が拡大した。



(4) 採算〔経常利益〕 採算DI（「好転した企業割合」－「悪化した企業割合」の指数）

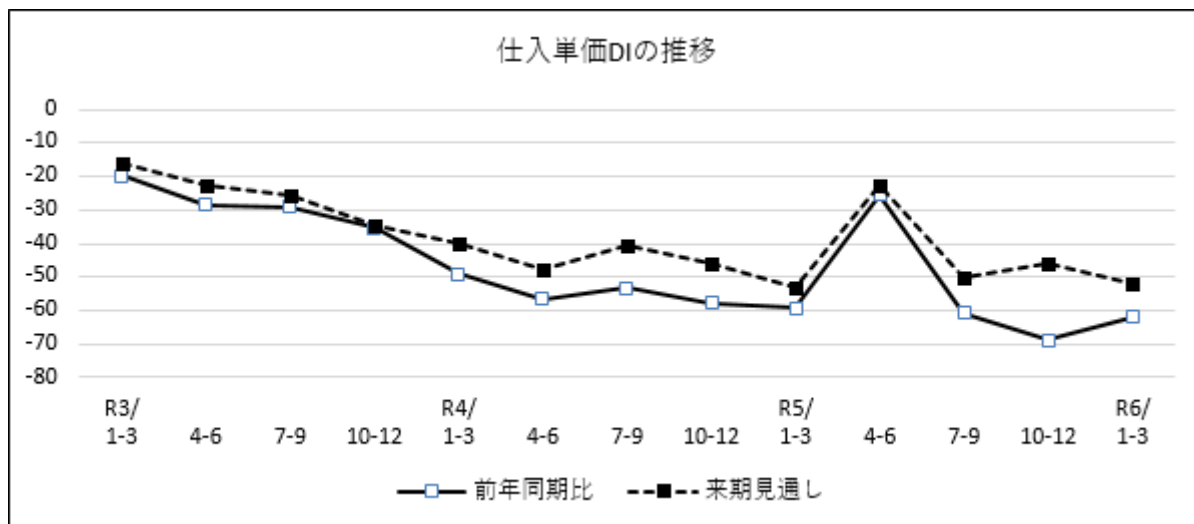
前年同期比：DIは▲16.5ポイント。
 前回調査（▲16.7）から0.2ポイントマイナス幅が縮小した。
 来期（先行き）見通し：DIは▲19.4ポイント。
 前回調査（▲19.8）から0.4ポイントマイナス幅が縮小した。



(5) 仕入単価 仕入単価DI（「下落した企業割合」－「上昇した企業割合」の指数）

前年同期比：DIは▲61.9ポイント。前回調査（▲68.8）から6.9ポイントマイナス幅が縮小した。

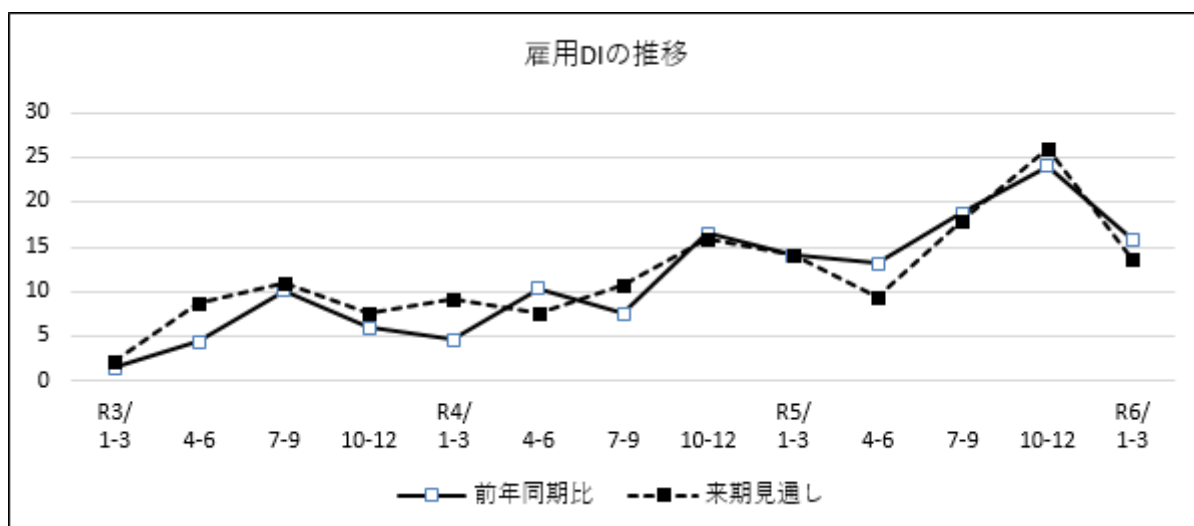
来期（先行き）見通し：DIは▲52.1ポイント。前回調査（▲45.8）から6.3ポイントマイナス幅が拡大した。



(6) 雇用 雇用DI（「不足気味の企業割合」－「過剰気味の企業割合」の指数）

前年同期比：DIは15.8ポイント。前回調査（24.0）から8.2ポイントプラス幅が縮小した。

来期（先行き）見通し：DIは13.7ポイント。前回調査（26.0）から12.3ポイントプラス幅が縮小した。

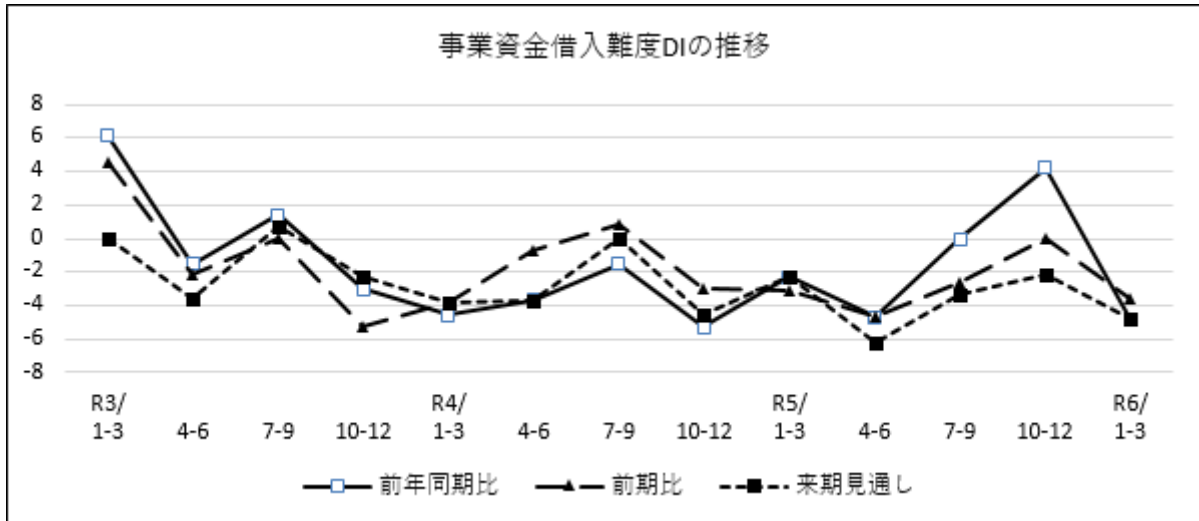


(7) 事業資金借入難度 事業資金借入難度DI（「ゆるやかな企業割合」－「きびしい企業割合」の指数）

前年同期比：DIは▲4.8ポイント。前回調査（4.2）から9.0ポイントマイナス値に転じた。

前期比：DIは▲3.6ポイント。前回調査（0.0）から3.6ポイントマイナス値に転じた。

来期（先行き）見通し：DIは▲4.8ポイント。前回調査（▲2.1）から2.7ポイントマイナス幅が拡大した。

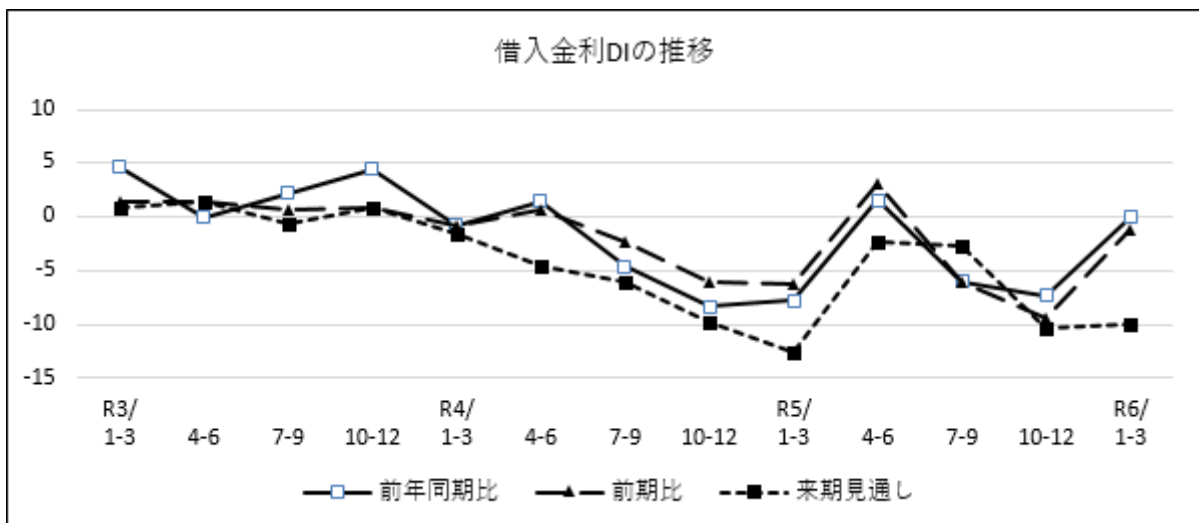


(8) 借入金利 借入金利DI（「下落した企業割合」－「上昇した企業割合」の指数）

前年同期比：DIは0.0ポイント。前回調査（▲7.3）から7.3ポイントプラス幅が拡大した。

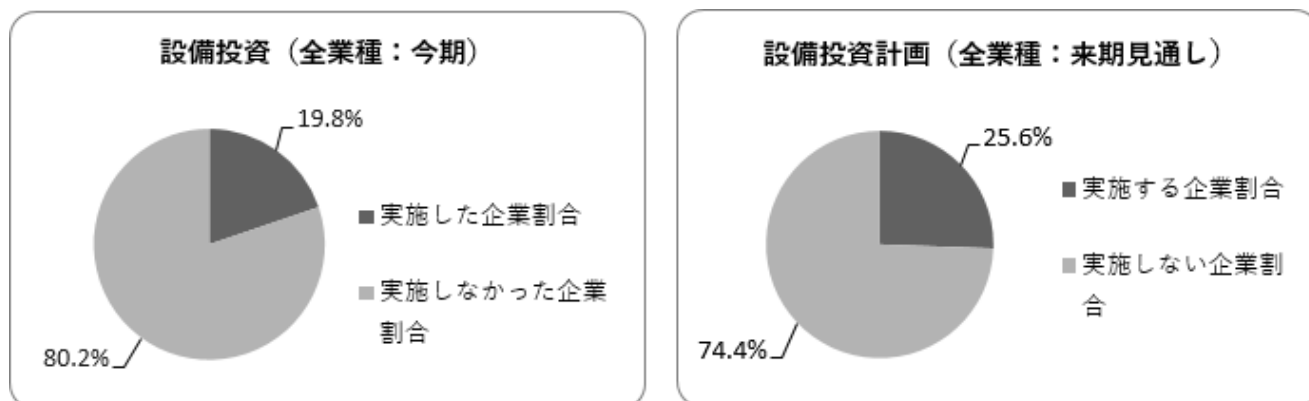
前期比：DIは▲1.2ポイント。前回調査（▲9.4）から8.2ポイントマイナス幅が縮小した。

来期（先行き）見通し：DIは▲9.9ポイント。前回調査（▲10.4）から0.5ポイントマイナス幅が縮小した。



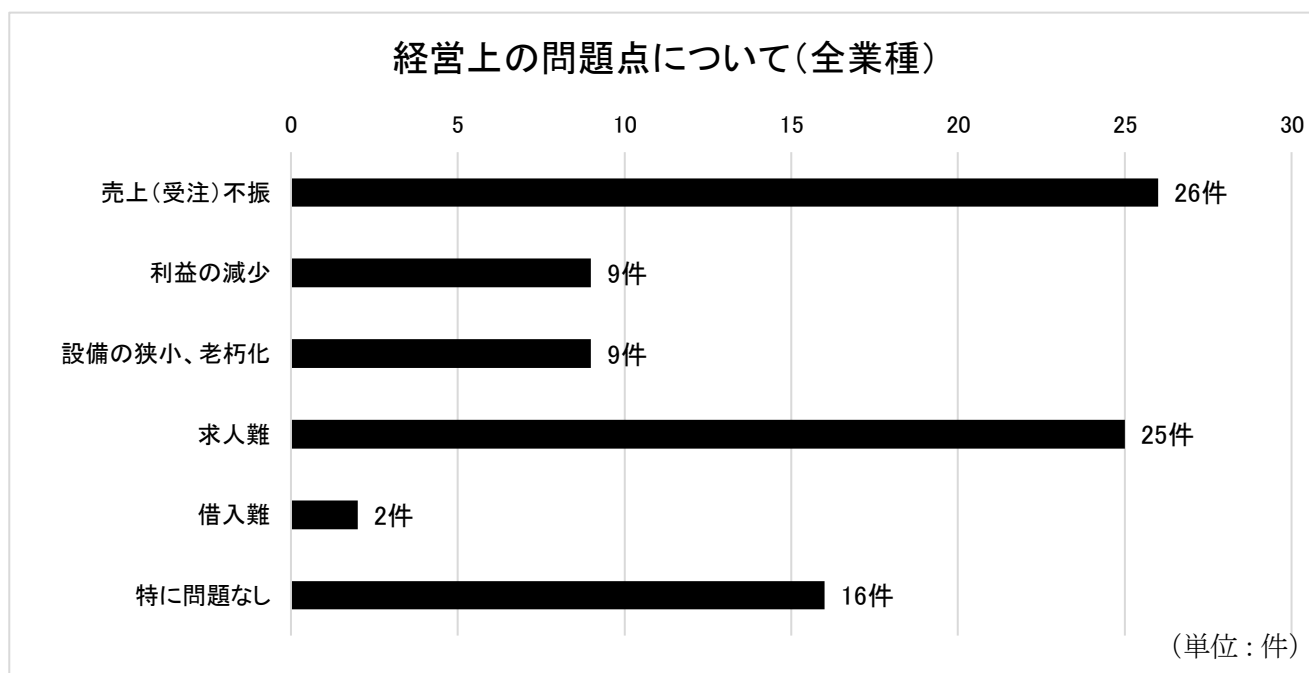
(9) 設備投資

今期設備投資を実施したと回答した企業は19.8%となり、前回調査(14.6%)より5.2ポイント増加した。また、来期設備投資を計画している企業は、25.6%となり、前回調査(12.5%)より13.1ポイント増加した。



3. 〈経営上の問題点〉

経営上の問題点として、最も多く挙げられているのは「売上不振」が26件、次いで「求人難」が25件となっている。



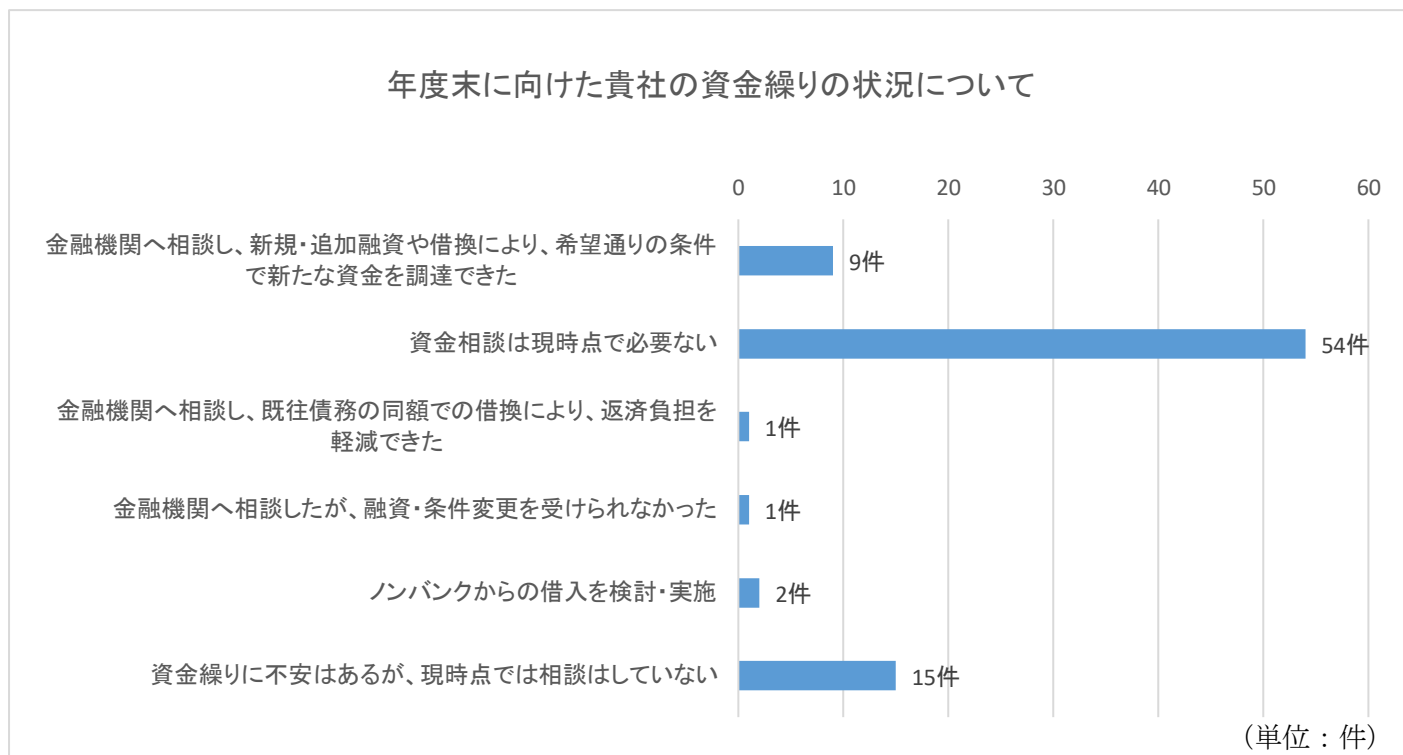
4. 当所管内業種別景況天気図（令和6年1月～3月期）

凡例					
	特に好転	好転	不変	悪化	特に悪化
DI値水準	>= +25.0	+24.9～+10.0	+9.9～-9.9	-10.0～-24.9	<= -25.0

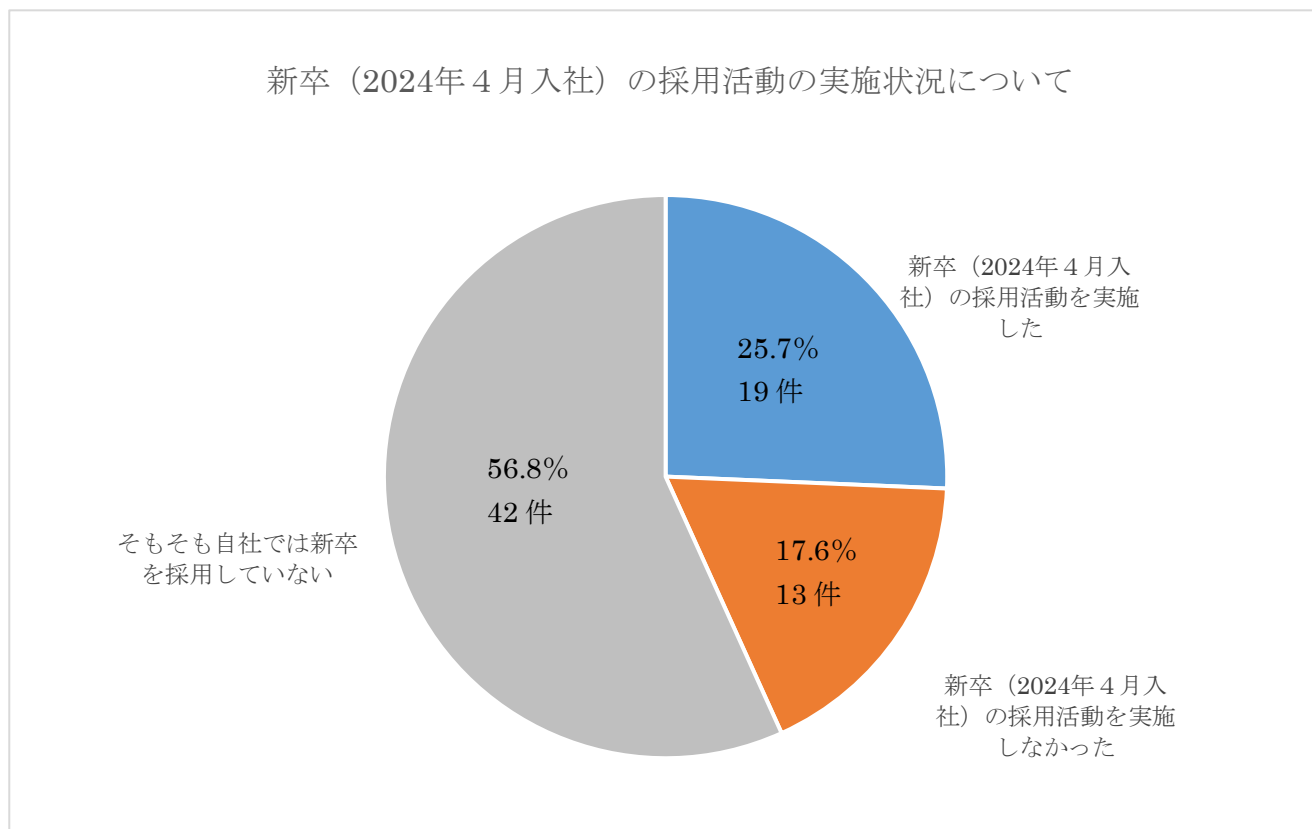
業種別	景気判断			業況判断			売上高			資金繰り			採算		
	R6 1月～3月期		R6 4月 ～ 6月 期	R6 1月～3月期		R6 4月 ～ 6月 期	R6 1月～3月期		R6 4月 ～ 6月 期	R6 1月～3月期		R6 4月 ～ 6月 期	R6 1月～3月期		R6 4月 ～ 6月 期
	前年 同月 比	前 期 比	見 通 し	前年 同月 比	前 期 比	見 通 し	前年 同月 比	前 期 比	見 通 し	前年 同月 比	前 期 比	見 通 し	前年 同月 比	見 通 し	
全業種															
製造業															
建設業															
卸売業															
小売業															
サービス業															
その他の業															

【 付帯調査 】

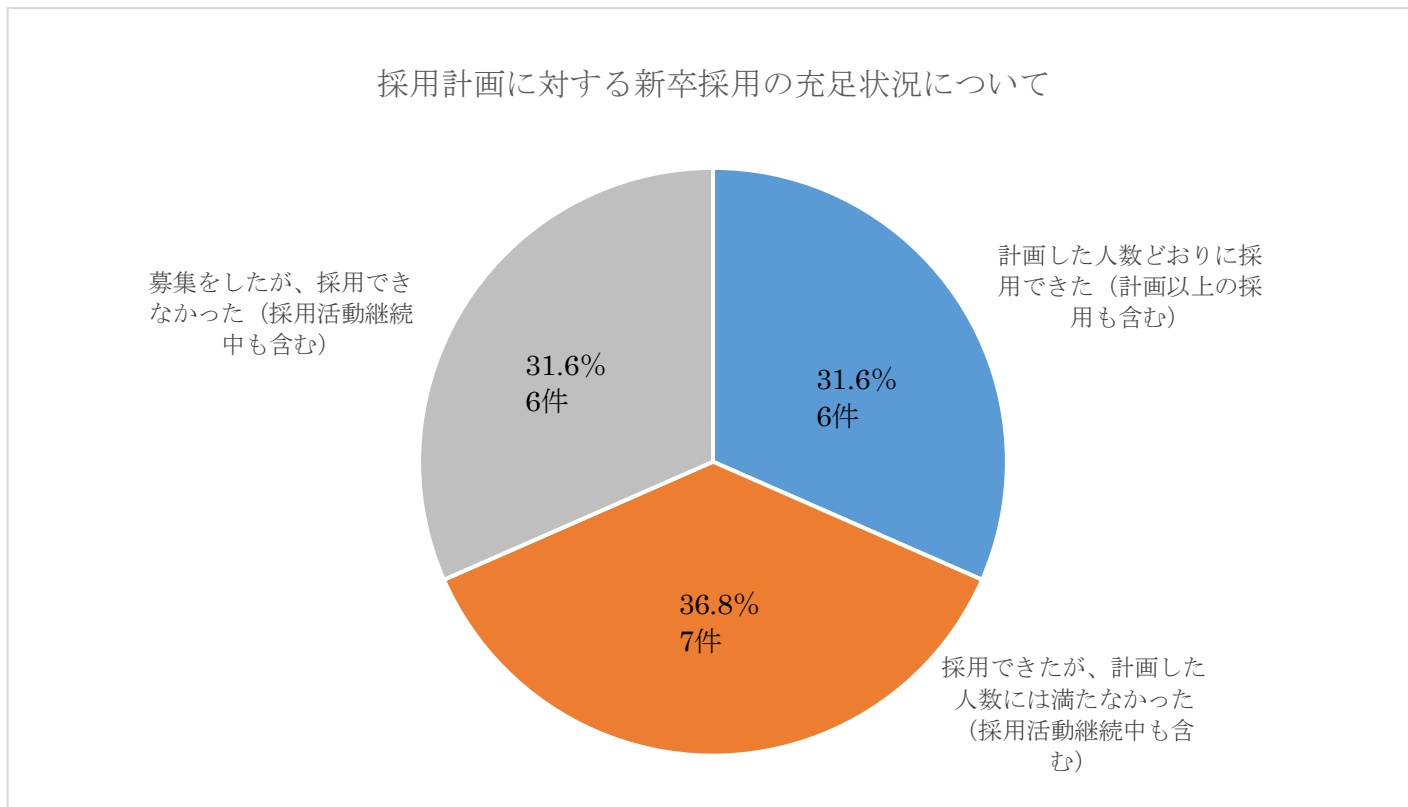
(1) 年度末に向けた貴社の資金繰りの状況について。(複数回答あり)



(2) 新卒（2024年4月入社）の採用活動の実施状況について



(3) 採用計画に対する新卒採用の充足状況について



(4) 新卒（2024年4月入社）の採用活動にあたり、取り組んだ事項はありますか。（複数回答あり）

